

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	新居浜工業高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通 科目	学部等 共通 科目	専門 科目	合計		
	機械工学科			7		7	7	
	電気情報工学科					7	7	
	電子制御工学科					7	7	
	生物応用化学科					7	7	
	環境材料工学科					7	7	
	生産工学専攻 (機械工学コース)		14		14	7		
	生産工学専攻 (環境材料工学コース)				14	7		
	生物応用化学専攻				14	7		
	電子工学専攻				14	7		
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

学校ウェブサイトにて公表 ・機械工学科 syllabus.kosen-k.go.jp/Pages/PublicSubjects?school_id=40&department_id=13&year=2026&lang=ja ・電気情報工学科 syllabus.kosen-k.go.jp/Pages/PublicSubjects?school_id=40&department_id=14&year=2026&lang=ja ・電子制御工学科 syllabus.kosen-k.go.jp/Pages/PublicSubjects?school_id=40&department_id=15&year=2026&lang=ja ・生物応用化学科 syllabus.kosen-k.go.jp/Pages/PublicSubjects?school_id=40&department_id=16&year=2026&lang=ja ・環境材料工学科
--

syllabus.kosen-k.go.jp/Pages/PublicSubjects?school_id=40&department_id=17&year=2026&lang=ja
 ・生産工学専攻(機械工学コース)
syllabus.kosen-k.go.jp/Pages/PublicSubjects?school_id=40&department_id=31&year=2026&lang=ja
 ・生産工学専攻(環境材料工学コース)
syllabus.kosen-k.go.jp/Pages/PublicSubjects?school_id=40&department_id=32&year=2026&lang=ja
 ・生物応用化学専攻
syllabus.kosen-k.go.jp/Pages/PublicSubjects?school_id=40&department_id=33&year=2026&lang=ja
 ・電子工学専攻
syllabus.kosen-k.go.jp/Pages/PublicSubjects?school_id=40&department_id=34&year=2026&lang=ja

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	新居浜工業高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

1. 理事（役員）名簿の公表方法

ホームページにて公表 https://www.kosen-k.go.jp/release/independence#link01

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
常勤	国立高等専門学校 理事（2024年4月1日～2026年3月31日）	2026年4月1日～2029年3月31日	理事長
常勤	文部科学省官房参事官（命）文部科学戦略官	2026年4月1日～2026年10月15日	総務
非常勤	東京大学教授	2026年4月1日～2028年3月31日	ダイバーシティ
常勤	東北大学工学研究科長	2026年4月1日～2028年3月31日	研究・産学連携 茨城工業高等専門学校校長兼務
（備考） 理事長は2024年3月31日まで九州大学大学院総合理工学府長・研究院長			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	新居浜工業高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) 授業計画書(シラバス)作成にあたっては、授業担当者及び関係分野の教員を中心に 見直し・改善、作成を行い、学科におけるシラバス検討委員会での審議を経て、年度 末までに授業内容・授業計画を確定している。 シラバスの公表は、次年度4月1日に行っている。	
授業計画書の公表方法	学校ウェブサイトにて公表 https://syllabus.kosen-k.go.jp/Pages/PublicDepartments?school_id=40&lang=ja
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	
(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要) 本科 各学生の学修成果に基づき、「新居浜工業高等専門学校学業成績評価等に関する規程」における成績評価等の方法により、厳格かつ適正に単位認定を行っている。 ・成績は、授業科目ごとに定期試験の成績その他を総合して100点法で評価する。 ・学年成績は、学期成績を総合して評価する。 ・学年成績は、優・良・可・不可とし、次の区分による。 優 80点以上 良 65点以上80点未満 可 60点以上65点未満 不可 60点未満 専攻科 各学生の学修成果に基づき、「新居浜工業高等専門学校専攻科の授業科目の履修等に関する規程」における成績の評価等の方法により、厳格かつ適正に単位認定を行っている。 ・成績は、授業科目ごとに試験の成績その他を総合して100点法で評価する。 ・成績の評価は、次の区分によるものとする。 A 80点以上 B 70点以上80点未満 C 60点以上70点未満 D 60点未満	
3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。	

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要) 成績は、授業科目ごとに定期試験の成績その他を総合して100点法で評価し、授業科目ごとに平均点を算出。 学生の全履修科目の合計点から平均点を計上し、順位を決定している。	
客観的な指標の 算出方法の公表方法	成績評価の方法が記載された履修要覧を新年度当初に全学生に配布している。定期試験の成績と指標（平均点、順位）算出については、試験終了ごとに学生及び保護者に通知し、十分な周知を行っている。 学校ウェブサイトにて公表 https://www.off.niihama-nct.ac.jp/kyoumu/nyugaku/shugaku_new.html
4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。	

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

本科

新居浜高専は、学科における教育上の目的を達成するため、所定の在学期間において、所属学科の定める工学基礎知識、専門知識、問題解決能力、教養、コミュニケーション能力、社会性を身につけ、所定の単位を修得した学生に卒業を認定します。

(1) 機械工学科

(教育上の目的)

機械工学科は、エネルギー・流れ、計測・制御、構造・材料、設計・加工及びデジタルエンジニアリングの各分野を柱として、エンジニアリングデザイン能力とコミュニケーション能力を身につけ、社会に貢献できる技術者を育成することを目的とする。

(身につける能力)

- A. 工学基礎知識：機械工学分野の知識を学ぶために必要な数学、自然科学などの基礎知識を身につけ、論理的に思考できる。
- B. 専門知識：機械工学分野に関する専門知識と技術を身につけ、工学的課題の解析に活用できる。
- C. 問題解決能力：ものづくりを通して得られるデザイン能力を活用し、問題解決に取り組むことができる。
- D. 教養：豊かな教養を持ち、正しい倫理観を身につけ、技術が社会や自然環境に及ぼす影響に配慮できる。
- E. コミュニケーション能力：自分の考えを論理的に他人に伝達できるとともに、英語による基礎的なコミュニケーションをとることができる。
- F. 社会性：キャリア教育や課外活動を通じて自主性、責任感、公共心を持って行動できる。

(2) 電気情報工学科

(教育上の目的)

電気情報工学科は、電気エネルギー・情報通信・コンピュータ等に関する十分な基礎的・専門的知識とともに正しい倫理観を身につけ、幅広い分野において創造性やコミュニケーション能力を発揮できる技術者を育成することを目的とする。

(身につける能力)

- A. 工学基礎知識：電気・情報・通信分野の知識を学ぶために必要な数学、自然科学などの基礎知識を身につけ、論理的に思考できる。
- B. 専門知識：電気・情報・通信分野に関する基本的な知識と技術を身につけ、工学的課題の解析に活用できる。
- C. 問題解決能力：電気・情報・通信分野に関して身につけた基本的な知識と技術を活用し、問題解決に取り組むことができる。
- D. 教養：豊かな教養を持ち、正しい倫理観を身につけ、技術が社会や自然環境に及ぼす影響に配慮できる。
- E. コミュニケーション能力：自分の考えを論理的に他人に伝達できるとともに、英語による基礎的なコミュニケーションをとることができる。
- F. 社会性：キャリア教育や課外活動を通じて自主性、責任感、公共心を持って行動できる。

(3) 電子制御工学科

(教育上の目的)

電子制御工学科は、電気・電子・情報分野の幅広い専門知識とともに、自然科学の基礎知識及び豊かな教養と倫理観を身につけ、社会の要請を的確に把握して、様々な分野で社会に貢献できる技術者を育成することを目的とする。

(身につける能力)

- A. 工学基礎知識：電子制御に関連する工学技術を学ぶために必要な数学、自然科学などの基礎知識を身につけ、論理的に思考できる。
- B. 専門知識：電子制御に関連する専門知識と技術を身につけ、工学的課題の解析に活用できる。
- C. 問題解決能力：電子制御に関連する知識と技術を活用し、問題解決に取り組むことができる。
- D. 教養：豊かな教養を持ち、正しい倫理観を身につけ、技術が社会や自然環境に及ぼす影響に配慮できる。
- E. コミュニケーション能力：自分の考えを論理的に他人に伝達できるとともに、英語による基礎的なコミュニケーションをとることができる。
- F. 社会性：キャリア教育や課外活動を通じて自主性、責任感、公共心を持って行動できる。

(4) 生物応用化学科

(教育上の目的)

生物応用化学科は、化学と生物工学に関する専門知識に加えて、地球環境問題や技術者倫理についても高い意識を持ち、生産現場のリーダーとなることができる技術者を育成することを目的とする。

(身につける能力)

- A. 工学基礎知識：応用化学、生物工学を学ぶために必要な数学、自然科学などの基礎知識を身につけ、論理的に思考できる。
- B. 専門知識：応用化学、生物工学に関する専門知識と技術を身につけ、工学的課題の解析に活用できる。
- C. 問題解決能力：身につけた専門知識と技術を継続的に向上させ、応用化学や生物工学の課題を発見し、問題解決に活用することができる。
- D. 教養：豊かな教養を持ち、正しい倫理観を身につけ、技術が社会や自然環境に及ぼす影響に配慮できる。
- E. コミュニケーション能力：自分の考えを論理的に他人に伝達できるとともに、英語による基礎的なコミュニケーションをとることができる。
- F. 社会性：キャリア教育や課外活動を通じて自主性、責任感、公共心を持って行動できる。

(5) 環境材料工学科

(教育上の目的)

環境材料工学科は、循環型社会の大切さを学び、材料工学に関する基礎的な専門知識と技術を身につけ、環境保全に対応した「ものづくり」ができる技術者を育成することを目的とする。

(身につける能力)

- A. 工学基礎知識：材料工学の知識を学ぶために必要な数学、自然科学などの基礎知識を身につけ、論理的に思考できる。
- B. 専門知識：環境との調和を考慮した材料に関する専門知識と技術を身につけ、工学的課題の解析に活用できる。
- C. 問題解決能力：材料工学の専門知識を実践的に活用し、問題解決に向けて自主的に考えることができる。
- D. 教養：豊かな教養を持ち、正しい倫理観を身につけ、技術が社会や自然環境に及ぼす影響に配慮できる。
- E. コミュニケーション能力：自分の考えを論理的に他人に伝達できるとともに、英語による基礎的なコミュニケーションをとることができる。
- F. 社会性：キャリア教育や課外活動を通じて自主性、責任感、公共心を持って行動できる。

専攻科

新居浜高専専攻科は、教育上の目的を達成するため、所定の在学期間において、以下に定める工学基礎知識、専門知識、問題解決能力、教養、コミュニケーション能力を身につけ、所定の単位を修得した学生に修了を認定します。

(1) 生産工学専攻

(教育上の目的)

生産工学専攻では、高等専門学校課程における機械・材料系学科の5年間の教育を基礎として、その上に高度な技術社会に対応できる幅広い専門的知識を有し、国際的に活躍できる技術者を育成することを目的とする。機械工学コースでは、基礎知識を有機的に組合せ、ICT技術を活用する能力を持ち、広範な工業分野のニーズに対応できるアイデアを生み出す能力を持つ技術者を育成する。環境材料工学コースでは、環境問題や循環型社会に配慮しつつ、材料工学に関する専門知識と技術を有し、ものづくりに応用できる技術者を育成する。

(身につける能力)

- A. 工学基礎知識：機械工学・材料工学分野の高度な知識を学ぶために必要な数学、自然科学、情報技術の知識を身につけ、専門分野の理解に応用できる。
- B. 専門知識：機械工学・材料工学分野の知識・技術を修得し、それらを実践的に応用できる。
- C. 問題解決能力：機械工学・材料工学分野の知識を活用して、課題発見と問題解決に向けて自主的に考え、他者と協働して計画を立案・実行できる。
- D. 教養：豊かな教養と正しい倫理観を持ち、技術が社会や自然環境に及ぼす影響に配慮できる多面的思考力を身につけ、技術者としての責任を自覚できる。

E. コミュニケーション能力：日本語による論理的な文章表現およびプレゼンテーションができ、国際的なコミュニケーションを円滑に行うための基礎となる英語を理解し、表現することができる。 (2) 生物応用化学専攻 (教育上の目的) 生物応用化学専攻では、高等専門学校課程における化学・生物系学科の5年間の教育を基礎として、その上に化学および生物工学を中心とした深い知識と社会環境を考えながら主体的に活動できる能力を持ち、国際的に活躍できる技術者を育成することを目的とする。 (身につける能力) A. 工学基礎知識：化学・生物工学分野の高度な知識を学ぶために必要な数学、自然科学、情報技術の知識を身につけ、専門分野の理解に応用できる。 B. 専門知識：化学・生物工学分野の高度な知識・技術を修得し、それらを実践的に応用できる。 C. 問題解決能力：化学・生物工学分野の高度な知識を活用して、課題発見と問題解決に向けて自主的に考え、他者と協働して計画を立案・実行できる。 D. 教養：豊かな教養と正しい倫理観を持ち、技術が社会や自然環境に及ぼす影響に配慮できる多面的思考力を身につけ、技術者としての責任を自覚できる。 E. コミュニケーション能力：日本語による論理的な文章表現およびプレゼンテーションができ、国際的なコミュニケーションを円滑に行うための基礎となる英語を理解し、表現することができる。 (3) 電子工学専攻 (教育上の目的) 電子工学専攻では、高等専門学校課程における電気・電子・情報系学科の5年間の教育を基礎として、その上に電子機器や制御機器の設計開発に不可欠な幅広い専門知識・技術とそれを応用する能力を有し、国際的に活躍できる技術者を育成することを目的とする。 (身につける能力) A. 工学基礎知識：電気・電子・情報工学分野の高度な知識を学ぶために必要な数学、自然科学の知識を身につけ、専門分野の理解に応用できる。 B. 専門知識：電気・電子・情報工学分野の高度な知識・技術を修得し、それらを実践的に応用できる。 C. 問題解決能力：電気・電子・情報工学分野の高度な知識を活用して、課題発見と問題解決に向けて自主的に考え、他者と協働して計画を立案・実行できる。 D. 教養：豊かな教養と正しい倫理観を持ち、技術が社会や自然環境に及ぼす影響に配慮できる多面的思考力を身につけ、技術者としての責任を自覚できる。 E. コミュニケーション能力：日本語による論理的な文章表現およびプレゼンテーションができ、国際的なコミュニケーションを円滑に行うための基礎となる英語を理解し、表現することができる。	
卒業の認定に関する 方針の公表方法	学校ウェブサイトにて公表 https://www.niihama-nct.ac.jp/guide/mokutekirinen/diplomapolicy/ https://www.niihama-nct.ac.jp/guide/mokutekirinen/diplomapolicy-s/

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	新居浜工業高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	ホームページにて公表 https://www.kosen-k.go.jp/wp/wp-content/uploads/2025/06/zaimusyohyoR6.pdf (https://www.kosen-k.go.jp/release/independence)
収支計算書又は損益計算書	ホームページにて公表 https://www.kosen-k.go.jp/wp/wp-content/uploads/2025/06/zaimusyohyoR6.pdf (https://www.kosen-k.go.jp/release/independence)
財産目録	
事業報告書	ホームページにて公表 https://www.kosen-k.go.jp/wp/wp-content/uploads/2025/06/R6jigyohoukoku.pdf (https://www.kosen-k.go.jp/release/independence)
監事による監査報告(書)	ホームページにて公表 https://www.kosen-k.go.jp/wp/wp-content/uploads/2025/06/R6jikotennkennhyouka.pdf (https://www.kosen-k.go.jp/release/independence)

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:独立行政法人国立高等専門学校機構の年度計画 対象年度:令和8年度)
公表方法: https://www.kosen-k.go.jp/wp/wp-content/uploads/2025/03/r7-keikaku.pdf (https://www.kosen-k.go.jp/release/independence)
中長期計画(名称:独立行政法人国立高等専門学校機構の中長期計画 対象年度:令和6年度から令和10年度)
公表方法: https://www.kosen-k.go.jp/wp/wp-content/uploads/2025/03/5th-keikaku.pdf (https://www.kosen-k.go.jp/release/independence)

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法:学校ウェブサイトにて公表 https://www.niihama-nct.ac.jp/public/plan/
--

(2) 認証評価の結果 (任意記載事項)

公表方法：

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 機械工学科
教育研究上の目的（公表方法：学校ウェブサイトにて公表） https://www.off.niihama-nct.ac.jp/shomu-a/kisoku-html/gakusoku.pdf https://www.niihama-nct.ac.jp/public/kyouiku.johotop/kyouiku.joho1/
（概要） 本校の目的（学則第 1 条） 本校は、教育基本法の精神にのっとり、及び学校教育法に基づき、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とする。 学科における教育上の目的（学則第 7 条の 3） エネルギー・流れ、計測・制御、構造・材料、設計・加工及びデジタルエンジニアリングの各分野を柱として、エンジニアリングデザイン能力とコミュニケーション能力を身につけ、社会に貢献できる技術者を育成することを目的とする。
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：学校ウェブサイトにて公表） https://www.niihama-nct.ac.jp/guide/mokutekirinen/diplomapolity/
（概要） 新居浜高専は、学科における教育上の目的を達成するため、所定の在学期間において、所属学科の定める工学基礎知識、専門知識、問題解決能力、教養、コミュニケーション能力、社会性を身につけ、所定の単位を修得した学生に卒業を認定します。 （教育上の目的） 機械工学科は、エネルギー・流れ、計測・制御、構造・材料、設計・加工及びデジタルエンジニアリングの各分野を柱として、エンジニアリングデザイン能力とコミュニケーション能力を身につけ、社会に貢献できる技術者を育成することを目的とする。 （身につける能力） A. 工学基礎知識：機械工学分野の知識を学ぶために必要な数学、自然科学などの基礎知識を身につけ、論理的に思考できる。 B. 専門知識：機械工学分野に関する専門知識と技術を身につけ、工学的課題の解析に活用できる。 C. 問題解決能力：ものづくりを通して得られるデザイン能力を活用し、問題解決に取り組むことができる。 D. 教養：豊かな教養を持ち、正しい倫理観を身につけ、技術が社会や自然環境に及ぼす影響に配慮できる。 E. コミュニケーション能力：自分の考えを論理的に他人に伝達できるとともに、英語による基礎的なコミュニケーションをとることができる。 F. 社会性：キャリア教育や課外活動を通じて自主性、責任感、公共心を持って行動できる。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：学校ウェブサイトにて公表） https://www.niihama-nct.ac.jp/guide/mokutekirinen/curriculumpolicy/
（概要） 卒業認定の方針に掲げる知識・技術を修得させるために、以下の方針に基づきカリキュラムを編成し、教育を実施します。 （カリキュラム編成の方針） カリキュラム全体として、低学年から高学年に進むにつれて、基礎的な知識から専門的かつ高度な知識や技術を身につけることができるよう、一般科目と専門科目をバランスよく配置する。 (1) 機械工学科 A. 工学基礎知識：機械工学分野の知識を学ぶために必要な数学、物理、化学などの科目を主として講義として配置する。 B. 専門知識：機械系技術者として必要な専門知識や技術を身につけるため、専門科目として、材料力学、機械力学、水力学、熱力学などの分野の講義・演習科目、およびこれに関連する製図・実験実習科目を配置する。 C. 問題解決能力：創造力、問題解決能力、論理的思考力などの汎用的能力を育むため、課題解決型の実験実習科目および卒業研究などを配置する。 D. 教養(令和 7 年度以降入学生)：技術者として必要な幅広い教養と倫理観を身につけるため、一般

科目として、国語、社会、保健体育、外国語などの科目を講義・演習・実技として配置する。 D. 教養(令和6年度以前入学生)：技術者として必要な幅広い教養と倫理観を身につけるため、一般科目として、国語、社会、保健体育、芸術、外国語などの科目を講義・演習・実技として配置する。 E. コミュニケーション能力：日本語による文章やプレゼンテーションで自分の考えを論理的に他人に伝達できる能力を身につけるため、卒業研究などの科目を配置する。また、国際的なコミュニケーション能力を身につけるため、英語科目を主として講義や演習として各学年に配置する。 F. 社会性：広く実社会における体験活動を行い、自主性、責任感、公共心を身につけ、幅広い職業観を持つことができるよう、学外研修やインターンシップなどを取り入れる。 (実施の方針) ※全学科共通 - 各授業科目の到達目標、授業概要、成績評価方法をシラバスに明示し周知する。 - 学修成果の評価は、次の方針にしたがってシラバスに明示した評価方法に基づき厳格に行う。 講義科目および演習科目においては、定期試験、授業中の演習、提出物などにより、到達目標に対する到達度を評価する。 実験実習科目においては、提出物、発表などにより、到達目標に対する到達度を評価する。 卒業研究においては、研究論文、研究発表、取り組み姿勢などにより、到達目標に対する到達度を評価する。 - 成績は100点法によるものとし、60点以上を合格とし所定の単位を認定する。成績評価は次の基準によるものとする。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価</th> <th>点数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>優</td> <td>80点以上</td> </tr> <tr> <td>良</td> <td>65点以上 80点未満</td> </tr> <tr> <td>可</td> <td>60点以上 65点未満</td> </tr> <tr> <td>不可</td> <td>60点未満</td> </tr> </tbody> </table>		評価	点数	優	80点以上	良	65点以上 80点未満	可	60点以上 65点未満	不可	60点未満
評価	点数										
優	80点以上										
良	65点以上 80点未満										
可	60点以上 65点未満										
不可	60点未満										
入学者の受入れに関する方針（公表方法：学校ウェブサイトにて公表） https://www.niihama-nct.ac.jp/entrance/junior-high-school-2/											
(概要) 本校の教育の基本方針は、「学びと体験を通じて、未来を切り拓く知恵と行動力を持った信頼される技術者を育てる。」です。この教育方針に基づいた教育目標を以下のように定めています。 1) 体験教育を通して、自主性、責任感及び自己学習能力を養う。 2) 課題発見と問題解決のための確かな知識、豊かな感性及び実践力を養う。 3) 豊かな教養と技術者としての倫理観を養い、社会に貢献できる広い視野を育む。 本校において、これらの教育目標を達成することができる資質を有している学生の選抜を目的とし、推薦による選抜、学力による選抜及び帰国生徒特別選抜を行います。 推薦選抜においては、在籍中学校長が責任を持って推薦でき、本校の教育を受けるのに必要な素養と基礎学力を有している人を選抜するため、推薦書、調査書及び自己申告書の評価するとともに、目的意識・学習意欲・適性などに関する面接と口頭試問を行い、その結果を総合的に評価します。 学力選抜においては、本校の教育を受けるのに必要な素養と基礎学力を有している人を選抜するため、調査書の評価するとともに、学力検査を行い、その結果を総合的に評価します。 帰国生徒特別選抜においては、豊かな海外経験を持ち、本校の教育を受けるのに必要な素養、基礎学力及び日本語能力を有している人を選抜するため、調査書の評価するとともに、学力検査、作文による検査及び面接を実施し、その結果を総合的に評価します。 具体的には、次のような学生を求めています。 ・数学や理科が好きで、将来技術者になりたいと考えている人 ・物を作ったり、実験したりすることが好きな人 ・中学校の学習内容を身につけている人 ・目標の実現に向かって絶えず工夫し、着実に努力できる人 ・ルールや約束を守ることができ、協調性や思いやりのある人 さらに、機械工学科では次のような学生を求めています。 ・物のしくみに興味を持ち、楽しく「ものづくり」ができる人 ・学んだことを活かして、積極的に「ものづくり」ができる人 ・アイデアを出し合って、協力して「ものづくり」ができる人											

学部等名	電気情報工学科
教育研究上の目的（公表方法：学校ウェブサイトにて公表） https://www.off.niihama-nct.ac.jp/shomu-a/kisoku-html/gakusoku.pdf	

https://www.niihama-nct.ac.jp/public/kyouiku.johotop/kyouiku.joho1/
(概要) 本校の目的（学則第1条） 本校は、教育基本法の精神にのっとり、及び学校教育法に基づき、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とする。 学科における教育上の目的（学則第7条の3） 電気エネルギー・情報通信・コンピュータ等に関する十分な基礎的・専門的知識とともに正しい倫理観を身につけ、幅広い分野において創造性やコミュニケーション能力を発揮できる技術者を育成することを目的とする。
卒業の認定に関する方針（公表方法：学校ウェブサイトにて公表） https://www.niihama-nct.ac.jp/guide/mokutekirinen/diplomapolicy/
(概要) 新居浜高専は、学科における教育上の目的を達成するため、所定の在学期間において、所属学科の定める工学基礎知識、専門知識、問題解決能力、教養、コミュニケーション能力、社会性を身につけ、所定の単位を修得した学生に卒業を認定します。 (教育上の目的) 電気情報工学科は、電気エネルギー・情報通信・コンピュータ等に関する十分な基礎的・専門的知識とともに正しい倫理観を身につけ、幅広い分野において創造性やコミュニケーション能力を発揮できる技術者を育成することを目的とする。 (身につける能力) A. 工学基礎知識：電気・情報・通信分野の知識を学ぶために必要な数学、自然科学などの基礎知識を身につけ、論理的に思考できる。 B. 専門知識：電気・情報・通信分野に関する基本的な知識と技術を身につけ、工学的課題の解析に活用できる。 C. 問題解決能力：電気・情報・通信分野に関して身につけた基本的な知識と技術を活用し、問題解決に取り組むことができる。 D. 教養：豊かな教養を持ち、正しい倫理観を身につけ、技術が社会や自然環境に及ぼす影響に配慮できる。 E. コミュニケーション能力：自分の考えを論理的に他人に伝達できるとともに、英語による基礎的なコミュニケーションをとることができる。 F. 社会性：キャリア教育や課外活動を通じて自主性、責任感、公共心を持って行動できる。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：学校ウェブサイトにて公表） https://www.niihama-nct.ac.jp/guide/mokutekirinen/curriculumpolicy/
(概要) 卒業認定の方針に掲げる知識・技術を修得させるために、以下の方針に基づきカリキュラムを編成し、教育を実施します。 (カリキュラム編成の方針) カリキュラム全体として、低学年から高学年に進むにつれて、基礎的な知識から専門的かつ高度な知識や技術を身につけることができるよう、一般科目と専門科目をバランスよく配置する。 (2) 電気情報工学科 A. 工学基礎知識：電気・情報・通信分野の知識を学ぶために必要な数学、物理、化学などの科目を主として講義として配置する。 B. 専門知識：電気・情報・通信技術者として必要な専門知識や技術を身につけるため、専門科目として、回路理論、電磁気学、プログラミング、通信工学などの分野の講義・演習科目、およびこれに関連する実験実習科目を配置する。また、第4学年からは、電気工学、情報工学に関する専門性の高い知識や技術を身につけるため、コース制を取り、コース別の科目を配置する。 C. 問題解決能力：創造力、問題解決能力、論理的思考力などの汎用的能力を育むため、課題解決型の実験実習科目および卒業研究などを配置する。 D. 教養(令和7年度以降入学生)：技術者として必要な幅広い教養と倫理観を身につけるため、一般科目として、国語、社会、保健体育、外国語などの科目を講義・演習・実技として配置する。 D. 教養(令和6年度以前入学生)：技術者として必要な幅広い教養と倫理観を身につけるため、一般科目として、国語、社会、保健体育、芸術、外国語などの科目を講義・演習・実技として配置する。 E. コミュニケーション能力：日本語による文章やプレゼンテーションで自分の考えを論理的に他人に伝達できる能力を身につけるため、卒業研究などの科目を配置する。また、国際的なコミュニケーション能力を身につけるため、英語科目を主として講義や演習として各学年に配置する。 F. 社会性：広く実社会における体験活動を行い、自主性、責任感、公共心を身につけ、幅広い職業

観を持つことができるよう、学外研修やインターンシップなどを取り入れる。 (実施の方針) ※全学科共通 - 各授業科目の到達目標、授業概要、成績評価方法をシラバスに明示し周知する。 - 学修成果の評価は、次の方針にしたがってシラバスに明示した評価方法に基づき厳格に行う。 講義科目および演習科目においては、定期試験、授業中の演習、提出物などにより、到達目標に対する到達度を評価する。 実験実習科目においては、提出物、発表などにより、到達目標に対する到達度を評価する。 卒業研究においては、研究論文、研究発表、取り組み姿勢などにより、到達目標に対する到達度を評価する。 - 成績は 100 点法によるものとし、60 点以上を合格とし所定の単位を認定する。成績評価は次の基準によるものとする。 <table><tr><td>評価</td><td>点数</td></tr><tr><td>優</td><td>80 点以上</td></tr><tr><td>良</td><td>65 点以上 80 点未満</td></tr><tr><td>可</td><td>60 点以上 65 点未満</td></tr><tr><td>不可</td><td>60 点未満</td></tr></table>	評価	点数	優	80 点以上	良	65 点以上 80 点未満	可	60 点以上 65 点未満	不可	60 点未満
評価	点数									
優	80 点以上									
良	65 点以上 80 点未満									
可	60 点以上 65 点未満									
不可	60 点未満									
入学者の受入れに関する方針（公表方法：学校ウェブサイトにて公表） https://www.niihama-nct.ac.jp/entrance/junior-high-school-2/										
(概要) 本校の教育の基本方針は、「学びと体験を通じて、未来を切り拓く知恵と行動力を持った信頼される技術者を育てる。」です。この教育方針に基づいた教育目標を以下のように定めています。 1) 体験教育を通して、自主性、責任感及び自己学習能力を養う。 2) 課題発見と問題解決のための確かな知識、豊かな感性及び実践力を養う。 3) 豊かな教養と技術者としての倫理観を養い、社会に貢献できる広い視野を育む。 本校において、これらの教育目標を達成することができる資質を有している学生の選抜を目的とし、推薦による選抜、学力による選抜及び帰国生徒特別選抜を行います。 推薦選抜においては、在籍中学校長が責任を持って推薦でき、本校の教育を受けるのに必要な素養と基礎学力を有している人を選抜するため、推薦書、調査書及び自己申告書を評価するとともに、目的意識・学習意欲・適性などに関する面接と口頭試問を行い、その結果を総合的に評価します。 学力選抜においては、本校の教育を受けるのに必要な素養と基礎学力を有している人を選抜するため、調査書を評価するとともに、学力検査を行い、その結果を総合的に評価します。 帰国生徒特別選抜においては、豊かな海外経験を持ち、本校の教育を受けるのに必要な素養、基礎学力及び日本語能力を有している人を選抜するため、調査書を評価するとともに、学力検査、作文による検査及び面接を実施し、その結果を総合的に評価します。 具体的には、次のような学生を求めています。 ・数学や理科が好きで、将来技術者になりたいと考えている人 ・物を作ったり、実験したりすることが好きな人 ・中学校の学習内容を身につけている人 ・目標の実現に向かって絶えず工夫し、着実に努力できる人 ・ルールや約束を守ることができ、協調性や思いやりのある人 さらに、電気情報工学科では次のような学生を求めています。 ・電気エネルギーを作ることや利用することに興味のある人 ・携帯電話などの情報通信システムに興味のある人 ・コンピュータの仕組みやプログラミングに興味のある人										

学部等名 電子制御工学科
教育研究上の目的（公表方法：学校ウェブサイトにて公表） https://www.off.niihama-nct.ac.jp/shomu-a/kisoku-html/gakusoku.pdf https://www.niihama-nct.ac.jp/public/kyouiku.johotop/kyouiku.joho1/
(概要) 本校の目的（学則第 1 条） 本校は、教育基本法の精神にのっとり、及び学校教育法に基づき、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とする。 学科における教育上の目的（学則第 7 条の 3） 電気・電子・情報分野の幅広い専門知識とともに、自然科学の基礎知識及び豊かな教養と倫理観を身につけ、社会の要請を的確に把握して、様々な分野で社会に貢献できる技術者を育成することを目的とする。

卒業の認定に関する方針（公表方法：学校ウェブサイトにて公表）

<https://www.niihama-nct.ac.jp/guide/mokutekirinen/diplomapolicy/>

（概要）

新居浜高専は、学科における教育上の目的を達成するため、所定の在学期間において、所属学科の定める工学基礎知識、専門知識、問題解決能力、教養、コミュニケーション能力、社会性を身につけ、所定の単位を修得した学生に卒業を認定します。

（教育上の目的）

電子制御工学科は、電気・電子・情報分野の幅広い専門知識とともに、自然科学の基礎知識及び豊かな教養と倫理観を身につけ、社会の要請を的確に把握して、様々な分野で社会に貢献できる技術者を育成することを目的とする。

（身につける能力）

- A. 工学基礎知識：電子制御に関連する工学技術を学ぶために必要な数学、自然科学などの基礎知識を身につけ、論理的に思考できる。
- B. 専門知識：電子制御に関連する専門知識と技術を身につけ、工学的課題の解析に活用できる。
- C. 問題解決能力：電子制御に関連する知識と技術を活用し、問題解決に取り組むことができる。
- D. 教養：豊かな教養を持ち、正しい倫理観を身につけ、技術が社会や自然環境に及ぼす影響に配慮できる。
- E. コミュニケーション能力：自分の考えを論理的に他人に伝達できるとともに、英語による基礎的なコミュニケーションをとることができる。
- F. 社会性：キャリア教育や課外活動を通じて自主性、責任感、公共心を持って行動できる。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：学校ウェブサイトにて公表）

<https://www.niihama-nct.ac.jp/guide/mokutekirinen/curriculumpolicy/>

(概要)

卒業認定の方針に掲げる知識・技術を修得させるために、以下の方針に基づきカリキュラムを編成し、教育を実施します。

(カリキュラム編成の方針)

カリキュラム全体として、低学年から高学年に進むにつれて、基礎的な知識から専門的かつ高度な知識や技術を身につけることができるよう、一般科目と専門科目をバランスよく配置する。

(3) 電子制御工学科

- A. 工学基礎知識：電子制御に関連する工学技術を学ぶために必要な数学、物理、化学などの科目を主として講義として配置する。
- B. 専門知識：電子制御に関連する分野の技術者として必要な専門知識や技術を身につけるため、専門科目として、電気工学、電子工学、制御工学、情報工学、ロボット工学などの分野の講義・演習科目、およびこれに関連する実験実習科目を配置する。
- C. 問題解決能力：創造力、問題解決能力、論理的思考力などの汎用的能力を育むため、課題解決型の実験実習科目および卒業研究などを配置する。
- D. 教養(令和7年度以降入学生)：技術者として必要な幅広い教養と倫理観を身につけるため、一般科目として、国語、社会、保健体育、外国語などの科目を講義・演習・実技として配置する。
- D. 教養(令和6年度以前入学生)：技術者として必要な幅広い教養と倫理観を身につけるため、一般科目として、国語、社会、保健体育、芸術、外国語などの科目を講義・演習・実技として配置する。
- E. コミュニケーション能力：日本語による文章やプレゼンテーションで自分の考えを論理的に他人に伝達できる能力を身につけるため、卒業研究などの科目を配置する。また、国際的なコミュニケーション能力を身につけるため、英語科目を主として講義や演習として各学年に配置する。
- F. 社会性：広く実社会における体験活動を行い、自主性、責任感、公共心を身につけ、幅広い職業観を持つことができるよう、学外研修やインターンシップなどを取り入れる。

(実施の方針) ※全学科共通

- ・各授業科目の到達目標、授業概要、成績評価方法をシラバスに明示し周知する。
- ・学修成果の評価は、次の方針にしたがってシラバスに明示した評価方法に基づき厳格に行う。
 - 講義科目および演習科目においては、定期試験、授業中の演習、提出物などにより、到達目標に対する到達度を評価する。
 - 実験実習科目においては、提出物、発表などにより、到達目標に対する到達度を評価する。
 - 卒業研究においては、研究論文、研究発表、取り組み姿勢などにより、到達目標に対する到達度を評価する。
- ・成績は100点法によるものとし、60点以上を合格とし所定の単位を認定する。成績評価は次の基準によるものとする。

評価 点数

優 80点以上

良 65点以上 80点未満

可 60点以上 65点未満

不可 60点未満

入学者の受入れに関する方針（公表方法：学校ウェブサイトにて公表）

<https://www.niihama-nct.ac.jp/entrance/junior-high-school-2/>

(概要) 本校の教育の基本方針は、「学びと体験を通じて、未来を切り拓く知恵と行動力を持った信頼される技術者を育てる。」です。この教育方針に基づいた教育目標を以下のように定めています。 1) 体験教育を通して、自主性、責任感及び自己学習能力を養う。 2) 課題発見と問題解決のための確かな知識、豊かな感性及び実践力を養う。 3) 豊かな教養と技術者としての倫理観を養い、社会に貢献できる広い視野を育む。 本校において、これらの教育目標を達成することができる資質を有している学生の選抜を目的とし、推薦による選抜、学力による選抜及び帰国生徒特別選抜を行います。 推薦選抜においては、在籍中学校長が責任を持って推薦でき、本校の教育を受けるのに必要な素養と基礎学力を有している人を選抜するため、推薦書、調査書及び自己申告書を評価するとともに、目的意識・学習意欲・適性などに関する面接と口頭試問を行い、その結果を総合的に評価します。 学力選抜においては、本校の教育を受けるのに必要な素養と基礎学力を有している人を選抜するため、調査書を評価するとともに、学力検査を行い、その結果を総合的に評価します。 帰国生徒特別選抜においては、豊かな海外経験を持ち、本校の教育を受けるのに必要な素養、基礎学力及び日本語能力を有している人を選抜するため、調査書を評価するとともに、学力検査、作文による検査及び面接を実施し、その結果を総合的に評価します。 具体的には、次のような学生を求めています。 ・数学や理科が好きで、将来技術者になりたいと考えている人 ・物を作ったり、実験したりすることが好きな人 ・中学校の学習内容を身につけている人 ・目標の実現に向かって絶えず工夫し、着実に努力できる人 ・ルールや約束を守ることができ、協調性や思いやりのある人 さらに、電子制御工学科では次のような学生を求めています。 ・エレクトロニクス、情報処理、制御に関する分野を幅広く学習したい人 ・ものづくりやロボットづくりの技術に興味のある人 ・コンピュータやインターネットの分野に興味のある人

学部等名 生物応用化学科
教育研究上の目的（公表方法：学校ウェブサイトにて公表） https://www.off.niihama-nct.ac.jp/shomu-a/kisoku-html/gakusoku.pdf https://www.niihama-nct.ac.jp/public/kyouiku.johotop/kyouiku.joho1/
(概要) 本校の目的（学則第1条） 本校は、教育基本法の精神にのっとり、及び学校教育法に基づき、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とする。 学科における教育上の目的（学則第7条の3） 化学と生物工学に関する専門知識に加えて、地球環境問題や技術者倫理についても高い意識を持ち、生産現場のリーダーとなることのできる技術者を育成することを目的とする。
卒業の認定に関する方針（公表方法：学校ウェブサイトにて公表） https://www.niihama-nct.ac.jp/guide/mokutekirinen/diplomapolicy/
(概要) 新居浜高専は、学科における教育上の目的を達成するため、所定の在学期間において、所属学科の定める工学基礎知識、専門知識、問題解決能力、教養、コミュニケーション能力、社会性を身につけ、所定の単位を修得した学生に卒業を認定します。 (教育上の目的) 生物応用化学科は、化学と生物工学に関する専門知識に加えて、地球環境問題や技術者倫理についても高い意識を持ち、生産現場のリーダーとなることのできる技術者を育成することを目的とする。 (身につける能力) A. 工学基礎知識：応用化学、生物工学を学ぶために必要な数学、自然科学などの基礎知識を身につけ、論理的に思考できる。 B. 専門知識：応用化学、生物工学に関する専門知識と技術を身につけ、工学的課題の解析に活用できる。 C. 問題解決能力：身につけた専門知識と技術を継続的に向上させ、応用化学や生物工学の課題を発見し、問題解決に活用することができる。 D. 教養：豊かな教養を持ち、正しい倫理観を身につけ、技術が社会や自然環境に及ぼす影響に配慮できる。

E. コミュニケーション能力：自分の考えを論理的に他人に伝達できるとともに、英語による基礎的なコミュニケーションをとることができる。
F. 社会性：キャリア教育や課外活動を通じて自主性、責任感、公共心を持って行動できる。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：学校ウェブサイトにて公表） https://www.niihama-nct.ac.jp/guide/mokutekirinen/curriculumpolicy/
（概要） 卒業認定の方針に掲げる知識・技術を修得させるために、以下の方針に基づきカリキュラムを編成し、教育を実施します。 （カリキュラム編成の方針） カリキュラム全体として、低学年から高学年に進むにつれて、基礎的な知識から専門的かつ高度な知識や技術を身につけることができるよう、一般科目と専門科目をバランスよく配置する。 （4）生物応用化学科 A. 工学基礎知識：応用化学、生物工学を学ぶために必要な数学、物理、化学などの科目を主として講義として配置する。 B. 専門知識：化学技術者、バイオ技術者として必要な専門知識や技術を身につけるため、専門科目として、有機化学、無機化学、分析化学、物理化学、化学工学、生物化学、微生物工学などの分野の講義・演習科目、およびこれに関連する実験科目を配置する。また、より専門性の高い応用化学、生物工学の知識や技術を身につけるために、第4学年からコース制を導入する。 C. 問題解決能力：創造力、問題解決能力、論理的思考力などの汎用的能力を育むため、課題解決型の実験実習科目および卒業研究などを配置する。 D. 教養（令和7年度以降入学生）：技術者として必要な幅広い教養と倫理観を身につけるため、一般科目として、国語、社会、保健体育、外国語などの科目を講義・演習・実技として配置する。 D. 教養（令和6年度以前入学生）：技術者として必要な幅広い教養と倫理観を身につけるため、一般科目として、国語、社会、保健体育、芸術、外国語などの科目を講義・演習・実技として配置する。 E. コミュニケーション能力：日本語による文章やプレゼンテーションで自分の考えを論理的に他人に伝達できる能力を身につけるため、卒業研究などの科目を配置する。また、国際的なコミュニケーション能力を身につけるため、英語科目を主として講義や演習として各学年に配置する。 F. 社会性：広く実社会における体験活動を行い、自主性、責任感、公共心を身につけ、幅広い職業観を持つことができるよう、学外研修やインターンシップなどを取り入れる。 （実施の方針）※全学科共通 ・各授業科目の到達目標、授業概要、成績評価方法をシラバスに明示し周知する。 ・学修成果の評価は、次の方針にしたがってシラバスに明示した評価方法に基づき厳格に行う。 講義科目および演習科目においては、定期試験、授業中の演習、提出物などにより、到達目標に対する到達度を評価する。 実験実習科目においては、提出物、発表などにより、到達目標に対する到達度を評価する。 卒業研究においては、研究論文、研究発表、取り組み姿勢などにより、到達目標に対する到達度を評価する。 ・成績は100点法によるものとし、60点以上を合格とし所定の単位を認定する。成績評価は次の基準によるものとする。 評価 点数 優 80点以上 良 65点以上 80点未満 可 60点以上 65点未満 不可 60点未満
入学者の受入れに関する方針（公表方法：学校ウェブサイトにて公表） https://www.niihama-nct.ac.jp/entrance/junior-high-school-2/
（概要） 本校の教育の基本方針は、「学びと体験を通じて、未来を切り拓く知恵と行動力を持った信頼される技術者を育てる。」です。この教育方針に基づいた教育目標を以下のように定めています。 1）体験教育を通して、自主性、責任感及び自己学習能力を養う。 2）課題発見と問題解決のための確かな知識、豊かな感性及び実践力を養う。 3）豊かな教養と技術者としての倫理観を養い、社会に貢献できる広い視野を育む。 本校において、これらの教育目標を達成することができる資質を有している学生の選抜を目的とし、推薦による選抜、学力による選抜及び帰国生徒特別選抜を行います。 推薦選抜においては、在籍中学校長が責任を持って推薦でき、本校の教育を受けるのに必要な素養と基礎学力を有している人を選抜するため、推薦書、調査書及び自己申告書を評価するとともに、

的意識・学習意欲・適性などに関する面接と口頭試問を行い、その結果を総合的に評価します。 学力選抜においては、本校の教育を受けるのに必要な素養と基礎学力を有している人を選抜するため、調査書を評価するとともに、学力検査を行い、その結果を総合的に評価します。 帰国生徒特別選抜においては、豊かな海外経験を持ち、本校の教育を受けるのに必要な素養、基礎学力及び日本語能力を有している人を選抜するため、調査書を評価するとともに、学力検査、作文による検査及び面接を実施し、その結果を総合的に評価します。 具体的には、次のような学生を求めています。 ・数学や理科が好きで、将来技術者になりたいと考えている人 ・物を作ったり、実験したりすることが好きな人 ・中学校の学習内容を身につけている人 ・目標の実現に向かって絶えず工夫し、着実に努力できる人 ・ルールや約束を守ることができ、協調性や思いやりのある人 さらに、生物応用化学科では次のような学生を求めています。 ・化学反応や物質の性質など化学の分野に興味がある人 ・微生物、細胞、培養などのバイオテクノロジーの分野に興味がある人 ・実験が好きで、自ら進んで新しいことにチャレンジしたい人
--

学部等名 環境材料工学科
教育研究上の目的（公表方法：学校ウェブサイトにて公表している。） https://www.off.niihama-nct.ac.jp/shomu-a/kisoku-html/gakusoku.pdf https://www.niihama-nct.ac.jp/public/kyouiku.johotop/kyouiku.johol/
（概要） 本校の目的（学則第1条） 本校は、教育基本法の精神にのっとり、及び学校教育法に基づき、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とする。 学科における教育上の目的（学則第7条の3） 循環型社会の大切さを学び、材料工学に関する基礎的な専門知識と技術を身につけ、環境保全に対応した「ものづくり」ができる技術者を育成することを目的とする。
卒業の認定に関する方針（公表方法：学校ウェブサイトにて公表している。） https://www.niihama-nct.ac.jp/guide/mokutekirinen/diplomapolicy/
（概要） 新居浜高専は、学科における教育上の目的を達成するため、所定の在学期間において、所属学科の定める工学基礎知識、専門知識、問題解決能力、教養、コミュニケーション能力、社会性を身につけ、所定の単位を修得した学生に卒業を認定します。 （教育上の目的） 環境材料工学科は、循環型社会の大切さを学び、材料工学に関する基礎的な専門知識と技術を身につけ、環境保全に対応した「ものづくり」ができる技術者を育成することを目的とする。 （身につける能力） A. 工学基礎知識：材料工学の知識を学ぶために必要な数学、自然科学などの基礎知識を身につけ、論理的に思考できる。 B. 専門知識：環境との調和を考慮した材料に関する専門知識と技術を身につけ、工学的課題の解析に活用できる。 C. 問題解決能力：材料工学の専門知識を実践的に活用し、問題解決に向けて自主的に考えることができる。 D. 教養：豊かな教養を持ち、正しい倫理観を身につけ、技術が社会や自然環境に及ぼす影響に配慮できる。 E. コミュニケーション能力：自分の考えを論理的に他人に伝達できるとともに、英語による基礎的なコミュニケーションをとることができる。 F. 社会性：キャリア教育や課外活動を通じて自主性、責任感、公共心を持って行動できる。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：学校ウェブサイトにて公表している。） https://www.niihama-nct.ac.jp/guide/mokutekirinen/curriculumpolicy/
（概要） 卒業認定の方針に掲げる知識・技術を修得させるために、以下の方針に基づきカリキュラムを編成し、教育を実施します。 （カリキュラム編成の方針） カリキュラム全体として、低学年から高学年に進むにつれて、基礎的な知識から専門的かつ高度な

知識や技術を身につけることができるよう、一般科目と専門科目をバランスよく配置する。

(5) 環境材料工学科

- A. 工学基礎知識：材料工学の知識を学ぶために必要な数学、物理、化学などの科目を主として講義として配置する。
- B. 専門知識：材料技術者として必要な専門知識や技術を身につけるため、専門科目として、金属材料、無機材料、有機材料などの分野の講義・演習科目、およびこれに関連する製図・実験実習科目を配置する。
- C. 問題解決能力：創造力、問題解決能力、論理的思考力などの汎用的能力を育むため、課題解決型の実験実習科目および卒業研究などを配置する。
- D. 教養(令和7年度以降入学生)：技術者として必要な幅広い教養と倫理観を身につけるため、一般科目として、国語、社会、保健体育、外国語などの科目を講義・演習・実技として配置する。
- D. 教養(令和6年度以前入学生)：技術者として必要な幅広い教養と倫理観を身につけるため、一般科目として、国語、社会、保健体育、芸術、外国語などの科目を講義・演習・実技として配置する。
- E. コミュニケーション能力：日本語による文章やプレゼンテーションで自分の考えを論理的に他人に伝達できる能力を身につけるため、卒業研究などの科目を配置する。また、国際的なコミュニケーション能力を身につけるため、英語科目を主として講義や演習として各学年に配置する。
- F. 社会性：広く実社会における体験活動を行い、自主性、責任感、公共心を身につけ、幅広い職業観を持つことができるよう、学外研修やインターンシップなどを取り入れる。

(実施の方針) ※全学科共通

- ・各授業科目の到達目標、授業概要、成績評価方法をシラバスに明示し周知する。
- ・学修成果の評価は、次の方針にしたがってシラバスに明示した評価方法に基づき厳格に行う。
講義科目および演習科目においては、定期試験、授業中の演習、提出物などにより、到達目標に対する到達度を評価する。
実験実習科目においては、提出物、発表などにより、到達目標に対する到達度を評価する。
卒業研究においては、研究論文、研究発表、取り組み姿勢などにより、到達目標に対する到達度を評価する。
- ・成績は100点法によるものとし、60点以上を合格とし所定の単位を認定する。成績評価は次の基準によるものとする。

評価	点数
優	80点以上
良	65点以上 80点未満
可	60点以上 65点未満
不可	60点未満

入学者の受入れに関する方針(公表方法：学校ウェブサイトにて公表している。)

<https://www.niihama-nct.ac.jp/entrance/junior-high-school-2/>

(概要)

本校の教育の基本方針は、「学びと体験を通じて、未来を切り拓く知恵と行動力を持った信頼される技術者を育てる。」です。この教育方針に基づいた教育目標を以下のように定めています。

- 1) 体験教育を通して、自主性、責任感及び自己学習能力を養う。
- 2) 課題発見と問題解決のための確かな知識、豊かな感性及び実践力を養う。
- 3) 豊かな教養と技術者としての倫理観を養い、社会に貢献できる広い視野を育む。

本校において、これらの教育目標を達成することができる資質を有している学生の選抜を目的とし、推薦による選抜、学力による選抜及び帰国生徒特別選抜を行います。

推薦選抜においては、在籍中学校長が責任を持って推薦でき、本校の教育を受けるのに必要な素養と基礎学力を有している人を選抜するため、推薦書、調査書及び自己申告書の評価するとともに、目的意識・学習意欲・適性などに関する面接と口頭試問を行い、その結果を総合的に評価します。

学力選抜においては、本校の教育を受けるのに必要な素養と基礎学力を有している人を選抜するため、調査書の評価するとともに、学力検査を行い、その結果を総合的に評価します。

帰国生徒特別選抜においては、豊かな海外経験を持ち、本校の教育を受けるのに必要な素養、基礎学力及び日本語能力を有している人を選抜するため、調査書の評価するとともに、学力検査、作文による検査及び面接を実施し、その結果を総合的に評価します。

具体的には、次のような学生を求めています。

- ・数学や理科が好きで、将来技術者になりたいと考えている人
- ・物を作ったり、実験したりすることが好きな人
- ・中学校の学習内容を身につけている人
- ・目標の実現に向かって絶えず工夫し、着実に努力できる人

- ・ルールや約束を守ることができ、協調性や思いやりのある人
- さらに、環境材料工学科では次のような学生を求めています。
- ・材料と地球環境との関係に関心がある人
 - ・優れた性能を持った新しい材料をつくりたい人
 - ・新しいことにチャレンジするバイタリティーがある人

学部等名 生産工学専攻

教育研究上の目的（公表方法：学校ウェブサイトにて公表）

<https://www.off.niihama-nct.ac.jp/shomu-a/kisoku-html/gakusoku.pdf>

<https://www.niihama-nct.ac.jp/public/kyouiku.johotop/kyouiku.johol/>

（概要）

本校の目的（学則第1条）

本校は、教育基本法の精神にのっとり、及び学校教育法に基づき、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とする。

専攻における教育上の目的（学則第39条の2）

高等専門学校の課程における機械・材料系学科の5年間の教育を基礎として、その上に高度な技術社会に対応できる幅広い専門的知識を有し、国際的に活躍できる技術者を育成することを目的とする。

（機械工学コース）

基礎知識を有機的に組合せ、ICT技術を活用する能力を持ち、広範な工業分野のニーズに対応できるアイデアを生み出す能力を持つ技術者を育成することを目的とする。

（環境材料工学コース）

環境問題や循環型社会に配慮しつつ、材料工学に関する専門知識と技術を有し、ものづくりに応用できる技術者を育成することを目的とする。

卒業の認定に関する方針（公表方法：学校ウェブサイトにて公表している。）

<https://www.niihama-nct.ac.jp/guide/mokutekirinen/diplomapolicy-s/>

（概要）

新居浜高専専攻科は、教育上の目的を達成するため、所定の在学期間において、以下に定める工学基礎知識、専門知識、問題解決能力、教養、コミュニケーション能力を身につけ、所定の単位を修得した学生に修了を認定します。

（教育上の目的）

生産工学専攻では、高等専門学校の課程における機械・材料系学科の5年間の教育を基礎として、その上に高度な技術社会に対応できる幅広い専門的知識を有し、国際的に活躍できる技術者を育成することを目的とする。機械工学コースでは、基礎知識を有機的に組合せ、ICT技術を活用する能力を持ち、広範な工業分野のニーズに対応できるアイデアを生み出す能力を持つ技術者を育成する。環境材料工学コースでは、環境問題や循環型社会に配慮しつつ、材料工学に関する専門知識と技術を有し、ものづくりに応用できる技術者を育成する。

（身につける能力）

- 工学基礎知識：機械工学・材料工学分野の高度な知識を学ぶために必要な数学、自然科学、情報技術の知識を身につけ、専門分野の理解に応用できる。
- 専門知識：機械工学・材料工学分野の知識・技術を修得し、それらを実践的に応用できる。
- 問題解決能力：機械工学・材料工学分野の知識を活用して、課題発見と問題解決に向けて自主的に考え、他者と協働して計画を立案・実行できる。
- 教養：豊かな教養と正しい倫理観を持ち、技術が社会や自然環境に及ぼす影響に配慮できる多面的思考力を身につけ、技術者としての責任を自覚できる。
- コミュニケーション能力：日本語による論理的な文章表現およびプレゼンテーションができ、国際的なコミュニケーションを円滑に行うための基礎となる英語を理解し、表現することができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：学校ウェブサイトにて公表）

<https://www.niihama-nct.ac.jp/guide/mokutekirinen/curriculum-s/>

（概要）

専攻科修了認定の方針に掲げる知識・技術を修得させるために、以下の方針に基づきカリキュラムを編成し、教育を実施します。

（カリキュラム編成の方針）

- 工学基礎知識：機械工学・材料工学分野の高度な知識を学ぶために必要な数学、自然科学、情報技術などの科目を講義・演習として配置する。

B. 専門知識：創造的な技術開発能力と総合的な判断能力を培うために、機械工学・材料工学分野に係る主分野の専門的な学識を体系的に、かつ幅広く履修できるように、機械工学コースでは、材料力学、機械設計、流体力学、熱力学、機械制御などの分野のより高度な専門科目を、環境材料工学コースでは、金属材料、無機材料、高分子材料、複合材料などの分野のより高度な専門科目を、講義・演習科目として配置する。 C. 問題解決能力：実践的技術者として要求される問題解決能力と自己学習能力を育むために、課題解決型の高度な実験実習科目および特別研究などの科目を配置する。 D. 教養：豊かな人間性と社会や環境に配慮できる倫理観を養うために、人文・社会系科目を講義として配置する。 E. コミュニケーション能力：日本語による文章表現力とプレゼンテーション能力を身につけるための科目を配置する。また、国際的なコミュニケーション能力を磨くために、講義や演習として各学年に英語科目を配置する。 （実施の方針）※全専攻共通 - 各授業科目の到達目標、授業概要、成績評価方法をシラバスに明示して周知する。 - 学修成果の評価は、次の方針にしたがってシラバスに明示した評価方法に基づき厳格に行う。 講義科目および演習科目においては、定期試験、授業中の演習、提出物などにより、到達目標に対する到達度を評価する。 実験実習科目においては、提出物、発表などにより、到達目標に対する到達度を評価する。 特別研究においては、研究論文、研究発表、取り組み姿勢などにより、到達目標に対する到達度を評価する。 - 成績は 100 点法によるものとし、60 点以上を合格とし所定の単位を認定する。成績評価は次の基準によるものとする。 <table><tr><td>評価</td><td>点数</td></tr><tr><td>優</td><td>80 点以上</td></tr><tr><td>良</td><td>70 点以上 80 点未満</td></tr><tr><td>可</td><td>60 点以上 70 点未満</td></tr><tr><td>不可</td><td>60 点未満</td></tr></table>	評価	点数	優	80 点以上	良	70 点以上 80 点未満	可	60 点以上 70 点未満	不可	60 点未満
評価	点数									
優	80 点以上									
良	70 点以上 80 点未満									
可	60 点以上 70 点未満									
不可	60 点未満									
入学者の受入れに関する方針（公表方法：学校ウェブサイトにて公表） https://www.niihama-nct.ac.jp/entrance/major-admi/										
（概要） 本校の教育の基本方針は、「学びと体験を通じて、未来を切り拓く知恵と行動力を持った信頼される技術者を育てる。」です。専攻科では、この教育方針に基づいた教育目標を以下のように定めています。 1) 体験教育を通して、自主性、責任感及び自己学習能力を養う。 2) 課題発見と問題解決のための確かな知識、豊かな感性及び実践力を養う。 3) 豊かな教養と技術者としての倫理観を養い、社会に貢献できる広い視野を育む。 4) リーダーとして信頼される資質・能力を高め、国際的なコミュニケーション能力を伸長する。 5) 創造的な技術開発能力と総合的な判断能力を養う。 これらの教育目標を達成することができる資質を有している学生を入学させることを入学選抜の基本方針としています。基礎学力を確認するために、推薦選抜及び社会人特別選抜では面接検査における簡単な筆答試験、学力選抜では専門の学力検査を実施しています。また、専攻科への適性と意欲をみるために、いずれの選抜においても面接検査を実施しています。 具体的には、次のような学生を求めています。 ・専門性、社会性、国際性に秀でた実践的、創造的な技術者を目指す人 ・専門とする技術分野の基礎学力を持っている人 ・特定の専門分野だけでなく、幅広く工学全般に興味を持っている人 ・自ら進んで勉学に取り組み、向上し続けようとする意欲を持っている人 ・広く社会に貢献する熱意を持っている人										

学部等名 生物応用化学専攻
教育研究上の目的（公表方法：学校ウェブサイトにて公表） https://www.off.niihama-nct.ac.jp/shomu-a/kisoku-html/gakusoku.pdf https://www.niihama-nct.ac.jp/public/kyouiku/johotop/kyouiku/joho1/
（概要） 本校の目的（学則第 1 条） 本校は、教育基本法の精神にのっとり、及び学校教育法に基づき、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とする。

専攻における教育上の目的（学則第39条の2）
高等専門学校課程における化学・生物系学科の5年間の教育を基礎として、その上に化学および生物工学を中心とした深い知識と社会環境を考えながら主体的に活動できる能力を持ち、国際的に活躍できる技術者を育成することを目的とする。

卒業の認定に関する方針（公表方法：学校ウェブサイトにて公表）
<https://www.niihama-nct.ac.jp/guide/mokutekirinen/diplomapolicy-s/>

（概要）
新居浜高専専攻科は、教育上の目的を達成するため、所定の在学期間において、以下に定める工学基礎知識、専門知識、問題解決能力、教養、コミュニケーション能力を身につけ、所定の単位を修得した学生に修了を認定します。

（教育上の目的）
生物応用化学専攻では、高等専門学校課程における化学・生物系学科の5年間の教育を基礎として、その上に化学および生物工学を中心とした深い知識と社会環境を考えながら主体的に活動できる能力を持ち、国際的に活躍できる技術者を育成することを目的とする。

（身につける能力）

- A. 工学基礎知識：化学・生物工学分野の高度な知識を学ぶために必要な数学、自然科学、情報技術の知識を身につけ、専門分野の理解に応用できる。
- B. 専門知識：化学・生物工学分野の高度な知識・技術を修得し、それらを実践的に応用できる。
- C. 問題解決能力：化学・生物工学分野の高度な知識を活用して、課題発見と問題解決に向けて自主的に考え、他者と協働して計画を立案・実行できる。
- D. 教養：豊かな教養と正しい倫理観を持ち、技術が社会や自然環境に及ぼす影響に配慮できる多面的思考力を身につけ、技術者としての責任を自覚できる。
- E. コミュニケーション能力：日本語による論理的な文章表現およびプレゼンテーションができ、国際的なコミュニケーションを円滑に行うための基礎となる英語を理解し、表現することができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：学校ウェブサイトにて公表）
<https://www.niihama-nct.ac.jp/guide/mokutekirinen/curriculum-s/>

（概要）
専攻科修了認定の方針に掲げる知識・技術を修得させるために、以下の方針に基づきカリキュラムを編成し、教育を実施します。

（カリキュラム編成の方針）

- A. 工学基礎知識：化学・生物工学分野の高度な知識を学ぶために必要な数学、自然科学、情報技術などの科目を講義・演習として配置する。
- B. 専門知識：創造的な技術開発能力と総合的な判断能力を培うために、化学・生物工学分野に係る主分野の専門的な学識を体系的に、かつ幅広く履修できるように有機化学、無機化学、物理化学、生物化学、化学工学、量子化学などの分野のより高度な専門科目を講義・演習科目として配置する。
- C. 問題解決能力：実践的技術者として要求される問題解決能力と自己学習能力を育むために、課題解決型の高度な実験実習科目および特別研究などの科目を配置する。
- D. 教養：豊かな人間性と社会や環境に配慮できる倫理観を養うために、人文・社会系科目を講義として配置する。
- E. コミュニケーション能力：日本語による文章表現力とプレゼンテーション能力を身につけるための科目を配置する。また、国際的なコミュニケーション能力を磨くために、講義や演習として各学年に英語科目を配置する。

（実施の方針）

- ・各授業科目の到達目標、授業概要、成績評価方法をシラバスに明示して周知する。
- ・学修成果の評価は、次の方針にしたがってシラバスに明示した評価方法に基づき厳格に行う。
 - 講義科目および演習科目においては、定期試験、授業中の演習、提出物などにより、到達目標に対する到達度を評価する。
 - 実験実習科目においては、提出物、発表などにより、到達目標に対する到達度を評価する。
 - 特別研究においては、研究論文、研究発表、取り組み姿勢などにより、到達目標に対する到達度を評価する。
- ・成績は100点法によるものとし、60点以上を合格とし所定の単位を認定する。成績評価は次の基準によるものとする。

評価	点数
優	80点以上
良	70点以上80点未満

可 60 点以上 70 点未満 不可 60 点未満
入学者の受入れに関する方針（公表方法：学校ウェブサイトにて公表） https://www.niihama-nct.ac.jp/entrance/major-admi/ （概要） 本校の教育の基本方針は、「学びと体験を通じて、未来を切り拓く知恵と行動力を持った信頼される技術者を育てる。」です。専攻科では、この教育方針に基づいた教育目標を以下のように定めています。 1）体験教育を通して、自主性、責任感及び自己学習能力を養う。 2）課題発見と問題解決のための確かな知識、豊かな感性及び実践力を養う。 3）豊かな教養と技術者としての倫理観を養い、社会に貢献できる広い視野を育む。 4）リーダーとして信頼される資質・能力を高め、国際的なコミュニケーション能力を伸長する。 5）創造的な技術開発能力と総合的な判断能力を養う。 これらの教育目標を達成することができる資質を有している学生を入学させることを入学選抜の基本方針としています。基礎学力を確認するために、推薦選抜及び社会人特別選抜では面接検査における簡単な筆答試験、学力選抜では専門の学力検査を実施しています。また、専攻科への適性と意欲をみるために、いずれの選抜においても面接検査を実施しています。 具体的には、次のような学生を求めています。 ・専門性、社会性、国際性に秀でた実践的、創造的な技術者を目指す人 ・専門とする技術分野の基礎学力を持っている人 ・特定の専門分野だけでなく、幅広く工学全般に興味を持っている人 ・自ら進んで勉学に取り組み、向上し続けようとする意欲を持っている人 ・広く社会に貢献する熱意を持っている人

学部等名 電子工学専攻
教育研究上の目的（公表方法：学校ウェブサイトにて公表） https://www.off.niihama-nct.ac.jp/shomu-a/kisoku-html/gakusoku.pdf https://www.niihama-nct.ac.jp/public/kyouiku.johotop/kyouiku.joho1/ （概要） 本校の目的（学則第1条） 本校は、教育基本法の精神にのっとり、及び学校教育法に基づき、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とする。 専攻における教育上の目的（学則第39条の2） 高等専門学校の課程における電気・電子・情報系学科の5年間の教育を基礎として、その上に電子機器や制御機器の設計開発に不可欠な幅広い専門知識・技術とそれを応用する能力を有し、国際的に活躍できる技術者を育成することを目的とする。 卒業の認定に関する方針（公表方法：学校ウェブサイトにて公表） https://www.niihama-nct.ac.jp/guide/mokutekirinen/diplomapolicy-s/ （概要） 新居浜高専専攻科は、教育上の目的を達成するため、所定の在学期間において、以下に定める工学基礎知識、専門知識、問題解決能力、教養、コミュニケーション能力を身につけ、所定の単位を修得した学生に修了を認定します。 （教育上の目的） 電子工学専攻では、高等専門学校の課程における電気・電子・情報系学科の5年間の教育を基礎として、その上に電子機器や制御機器の設計開発に不可欠な幅広い専門知識・技術とそれを応用する能力を有し、国際的に活躍できる技術者を育成することを目的とする。 （身につける能力） A. 工学基礎知識：電気・電子・情報工学分野の高度な知識を学ぶために必要な数学、自然科学の知識を身につけ、専門分野の理解に応用できる。 B. 専門知識：電気・電子・情報工学分野の高度な知識・技術を修得し、それらを実践的に応用できる。 C. 問題解決能力：電気・電子・情報工学分野の高度な知識を活用して、課題発見と問題解決に向けて自主的に考え、他者と協働して計画を立案・実行できる。 D. 教養：豊かな教養と正しい倫理観を持ち、技術が社会や自然環境に及ぼす影響に配慮できる多面的思考力を身につけ、技術者としての責任を自覚できる。 E. コミュニケーション能力：日本語による論理的な文章表現およびプレゼンテーションができ、国

際的なコミュニケーションを円滑に行うための基礎となる英語を理解し、表現することができる。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：学校ウェブサイトにて公表） https://www.niihama-nct.ac.jp/guide/mokutekirinen/curriculum-s/
（概要） 専攻科修了認定の方針に掲げる知識・技術を修得させるために、以下の方針に基づきカリキュラムを編成し、教育を実施します。 （カリキュラム編成の方針） A. 工学基礎知識：電気・電子・情報工学分野の高度な知識を学ぶために必要な数学、自然科学などの科目を講義・演習として配置する。 B. 専門知識：創造的な技術開発能力と総合的な判断能力を培うために、電気・電子・情報工学分野に係る主分野の専門的な学識を体系的に、かつ幅広く履修できるように高電圧工学、電子物性、電子工学、電気回路、人工知能分野のより高度な専門科目を講義・演習科目として配置する。 C. 問題解決能力：実践的技術者として要求される問題解決能力と自己学習能力を育むために、課題解決型の高度な実験実習科目および特別研究などの科目を配置する。 D. 教養：豊かな人間性と社会や環境に配慮できる倫理観を養うために、人文・社会系科目を講義として配置する。 E. コミュニケーション能力：日本語による文章表現力とプレゼンテーション能力を身につけるための科目を配置する。また、国際的なコミュニケーション能力を磨くために、講義や演習として各学年に英語科目を配置する。 （実施の方針） ・各授業科目の到達目標、授業概要、成績評価方法をシラバスに明示して周知する。 ・学修成果の評価は、次の方針にしたがってシラバスに明示した評価方法に基づき厳格に行う。 講義科目および演習科目においては、定期試験、授業中の演習、提出物などにより、到達目標に対する到達度を評価する。 実験実習科目においては、提出物、発表などにより、到達目標に対する到達度を評価する。 特別研究においては、研究論文、研究発表、取り組み姿勢などにより、到達目標に対する到達度を評価する。 ・成績は 100 点法によるものとし、60 点以上を合格とし所定の単位を認定する。成績評価は次の基準によるものとする。 評価 点数 優 80 点以上 良 70 点以上 80 点未満 可 60 点以上 70 点未満 不可 60 点未満
入学者の受入れに関する方針（公表方法：学校ウェブサイトにて公表） https://www.niihama-nct.ac.jp/entrance/major-admi/
（概要） 本校の教育の基本方針は、「学びと体験を通じて、未来を切り拓く知恵と行動力を持った信頼される技術者を育てる。」です。専攻科では、この教育方針に基づいた教育目標を以下のように定めています。 1) 体験教育を通して、自主性、責任感及び自己学習能力を養う。 2) 課題発見と問題解決のための確かな知識、豊かな感性及び実践力を養う。 3) 豊かな教養と技術者としての倫理観を養い、社会に貢献できる広い視野を育む。 4) リーダーとして信頼される資質・能力を高め、国際的なコミュニケーション能力を伸長する。 5) 創造的な技術開発能力と総合的な判断能力を養う。 これらの教育目標を達成することができる資質を有している学生を入学させることを入学選抜の基本方針としています。基礎学力を確認するために、推薦選抜及び社会人特別選抜では面接検査における簡単な筆答試験、学力選抜では専門の学力検査を実施しています。また、専攻科への適性と意欲をみるために、いずれの選抜においても面接検査を実施しています。 具体的には、次のような学生を求めています。 ・専門性、社会性、国際性に秀でた実践的、創造的な技術者を目指す人 ・専門とする技術分野の基礎学力を持っている人 ・特定の専門分野だけでなく、幅広く工学全般に興味を持っている人 ・自ら進んで勉学に取り組み、向上し続けようとする意欲を持っている人 ・広く社会に貢献する熱意を持っている人

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：学校ウェブサイトにて公表している。

<https://www.niihama-nct.ac.jp/introduction/>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	4 人	—					4 人
機械工学科	—	4 人	2 人	1 人	2 人	0 人	9 人
電気情報工学科	—	3 人	5 人	0 人	1 人	0 人	9 人
電子制御工学科	—	3 人	3 人	1 人	0 人	0 人	7 人
生物応用化学科	—	3 人	3 人	1 人	2 人	0 人	9 人
環境材料工学科	—	3 人	3 人	1 人	1 人	0 人	8 人
数理科	—	4 人	3 人	1 人	2 人	1 人	11 人
一般教養科	—	4 人	5 人	0 人	3 人	1 人	13 人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
0 人		31 人					31 人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法： https://research.kosen-k.go.jp/researcher-list					
c. F D（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関する事

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
機械工学科	40 人	41 人	102.5%	200 人	209 人	104.5%	若干名	0 人
電気情報工学科	40 人	42 人	105.0%	200 人	211 人	105.5%	若干名	0 人
電子制御工学科	40 人	42 人	105.0%	200 人	212 人	106.0%	若干名	0 人
生物応用化学科	40 人	42 人	105.0%	200 人	209 人	104.5%	若干名	1 人
環境材料工学科	40 人	42 人	105.0%	200 人	206 人	103.0%	若干名	1 人
合計	200 人	209 人	104.5%	1,000 人	1,047 人	104.7%	若干名	2 人
生産工学専攻	8 人	6 人	75.0%	16 人	20 人	125.0%	なし	0 人
生物応用化学専攻	4 人	2 人	50.0%	8 人	7 人	87.5%	なし	0 人
電子工学専攻	8 人	11 人	137.5%	16 人	21 人	131.3%	なし	0 人
合計	20 人	19 人	95.0%	40 人	48 人	120.0%	なし	0 人
(備考)								

b. 卒業者数・修了者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業者数・修了者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
機械工学科	38 人 (100%)	8 人 (21.1%)	27 人 (71.1%)	3 人 (7.9%)
電気情報工学科	41 人 (100%)	8 人 (19.5%)	32 人 (78.0%)	1 人 (2.4%)
電子制御工学科	37 人 (100%)	19 人 (51.4%)	17 人 (45.9%)	1 人 (2.7%)
生物応用化学科	40 人 (100%)	12 人 (30.0%)	27 人 (67.5%)	1 人 (2.5%)
環境材料工学科	35 人 (100%)	9 人 (25.7%)	26 人 (74.3%)	0 人 (0%)
生産工学専攻	8 人 (100%)	0 人 (0%)	8 人 (100%)	0 人 (0%)
生物応用化学専攻	5 人 (100%)	2 人 (40.0%)	3 人 (60.0%)	0 人 (0%)
電子工学専攻	13 人 (100%)	2 人 (15.4%)	11 人 (84.6%)	0 人 (0%)
合計	217 人 (100%)	60 人 (27.7%)	151 人 (69.6%)	6 人 (2.8%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業又は修了する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業・修了者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

（概要）
 授業計画書（シラバス）作成にあたっては、授業担当者及び関係分野の教員を中心に見直し・改善、作成を行い、学科におけるシラバス検討委員会での審議を経て、年度末までに授業内容・授業計画を確定している。
 シラバスの公表は、次年度４月１日に行っている。

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

（概要）
成績評価
 各学生の学修成果に基づき、「新居浜工業高等専門学校学業成績評価等に関する規程」における成績評価等の方法により、厳格かつ適正に単位認定を行っている。
 ・成績は、授業科目ごとに定期試験の成績その他を総合して 100 点法で評価する。
 ・学年成績は、学期成績を総合して評価する。
 ・学年成績は、優・良・可・不可とし、次の区分による。
 優 80 点以上
 良 65 点以上 80 点未満
 可 60 点以上 65 点未満
 不可 60 点未満
卒業の条件
 ・一般科目を 75 単位以上、専門科目を 82 単位以上修得しており、一般科目及び専門科目の修得単位数の合計が 167 単位以上であること。
 ・一般科目及び学科毎に開設された専門科目のうち、必修科目を全て修得していること。
 ・一般科目及び学科毎に開設された専門科目のうち、コア科目を全て修得していること。
 ・選択必修科目の修得上の条件を充足していること。
専攻科の成績の評価
 各学生の学修成果に基づき、「新居浜工業高等専門学校専攻科の授業科目の履修等に関する規程」における成績の評価等の方法により、厳格かつ適正に単位認定を行っている。
 ・成績は、授業科目ごとに規定する試験の成績その他を総合して100点法で評価する。
 ・成績の評価は、次の区分によるものとする。
 A 80点以上
 B 70点以上80点未満
 C 60点以上70点未満
 D 60 点未満
専攻科の修了要件

専攻科に 2 年以上在学し、所定の授業科目を履修し、当該専攻で開設されている所定の必修科目の単位数を含む 62 単位以上修得していること。

学部名	学科名	卒業又は修了に必要な となる単位数	G P A 制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
	機械工学科	1 6 7 単位	有・無	単位
	電気情報工学科		有・無	単位
	電子制御工学科		有・無	単位
	生物応用化学科		有・無	単位
	環境材料工学科		有・無	単位
	生産工学専攻 (機械工学コース)	6 2 単位	有・無	単位
	生産工学専攻 (環境材料工学コース)		有・無	単位
	生物応用化学専攻		有・無	単位
	電子工学専攻		有・無	単位
G P A の活用状況 (任意記載事項)		公表方法：		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法：		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：学校ウェブサイトにて公表

<https://www.niihama-nct.ac.jp/public/kyouiku.johotop/kyouiku.joho7/>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考（任意記載事項）
	全学科・ 専攻共通	234,600 円	84,600 円	寮生以外 1,550 円 寮生 9,950 円～ 11,150 円	・スポーツ振興センター 共済掛金：1,550 円 ・寄宿料（寮生のみ） ：複数人室 8,400 円 ：個室 9,600 円

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
（概要） 日本学生支援機構給付型奨学金を受給予定もしくは申請予定の学生については、採用・不採用の結果判明後に、結果に応じた入学料・授業料を徴収している。 また、その他にも、入学料・授業料免除等の各種制度にて、修学に係る支援を行っている。
b. 進路選択に係る支援に関する取組
（概要） 本科4年生及び専攻科1年生を主な対象とした企業セミナーを、本校において実施している。また、授業科目にインターンシップも組み込んで支援を図っている。
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
（概要） 学生及び教職員の健康維持・増進を図るとともに、本校における教育活動が安全かつ適切に実施されるための支援を行うことを目的として、平成29年度に保健管理センターを開設している。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：学校ウェブサイトにて公表している。 https://www.niihama-nct.ac.jp/public/kyouiku_johotop/

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。